

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



なごや
ちくさ
WEEKLY

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 愛知厚生年金会館
事務局 千種区池下一丁目4番18号
井上ビル4F D号
Tel 763-5110
会長 竹内真三

No.19 (1983~1984)

みんなにロータリーを —— みんなに奉仕を
Share Rotary —— Serve People

1983~84年度RI会長 ウィリアムE. スケルトン

第63回例会 昭和58年11月8日(火)晴

◇ “奉仕の理想”

◇出席報告

会員 50(49)名 出席 40名
出席率 81.63%

◇前回 11月1日(修正出席率) 100%

make up

橋本君(11/4港), 菊池君(10/29守山), 久保田君(11/7東), 水野(賀)君(11/5守山), 新美君(11/1名東), 笹野君(11/5守山), 谷口君(11/2名北), 都築君(11/2和合), 矢野君(11/4北)

◇誕生日祝福

加藤(大)君(11/14)

◇ニコボックス

古川君(25周年記念映画祭によせて), 松居君(先日, テレビ番組「料理天国」で当料亭「松楓閣」が紹介されました), 小林君(本日のスピーカーを紹介させていただきます), 久保田君(ゴルフコンペ10月例会で優勝しました), 都築君(ホームクラブ御無沙汰しました), 原君(入会につきよろしく願います), 加藤(大)君(誕生祝)

◇三輪幹事報告

1. 次回例会はフェアサイドミーティングで午後6時より松楓閣で開かれます。昼間の例会はございませんので間違えないようお願いいたします。
2. ロータリーの友11月号が届いておりますのでお持ち帰り下さい。
3. 本日例会終了後, 臨時総会がありますので, 全員そのままお残り下さい。

◇竹内会長挨拶

栄の中日ビルの南に愛知県医師会館の建物があります。布池の交叉点の近くには名古屋市医師会館の建物があります。同業組合のビルとしてはまずまずのもので, 他業種のそれと比べてもそれ程遜色はないと思います。こ

のビルの建設に当って, 又その後の管理運営に当っても県市, 当局よりいくばくかの補助金が出されております。又看護婦の養成のための学校を開設していますが, 勿論これにも一人頭幾らと補助金があります。

小さくは仲田と今池の間に休日急病診療所が開設され(各区に1カ所づつ), 市民に役立っていると思っております, これ又市より名目をつけて補助金を受けて運営しています。

何故, 医師会の身内の話をするのかと申しますと, 実は『補助金』というものについて考えたからであります。補助金とは申しますが, 返済をせずともよい体のいい借金なのです。そのサンプルに医師会の例をとるのが一番穏当と考えたからです。私を含め私共の知らぬ中に, 医師会関係でさえ, この他いろいろと公共の補助を受けて会務の運営がなされております。多分, 他の業界におかれても似たりよったりであろうかと推量しております。これを拡大して, 業種でなく地域に置き換えたなら如何でありましょうか。「町村は市に」「市は県に」「県は国に」と援助と申しますか補助(金)を仰ぐ恰好となりましょう。まさか「日本は米国に」の図式はないと信じますが。

よくよく考えてみますと, 日本国中『補助金』という代物によってそれぞれ因となり果となりして社会の仕組みとか政治の仕組みとなっております。この『補助金』も対象が『公共』という形をとっている限り, 何の不思議も誰も抱きません。よくよく考えれば本来自前でそれぞれの単位(村・町・市・県といった)の仕事をするべきものが, 『他人の俸』を当てにして仕事をしているようなものです。適当にやっておいて足らぬところは誰かに補填して貰うという発想は『道楽息子』の発想であり『妾』の発想ではないかと思うの

です。

しかし、誰も「妾の考え方」とも思わずに極く当り前のことに受け取っているようです。

やっと決着をみました。韓国との40億ドルの借款の件も類似の事件に思えてなりません。『補助金』という奴、貰った方は出した方に頭が上がりにません。しかし初めは少額でも感謝していたものが段々と金額の多少の小言を言います。挙句、多額の補助金の『仲介ブローカー』を探します。

即ち、これが何々先生という代議士さん達です。代議士になるには選挙でより多くの票を集めねばなりませんから「補助金と票」は互いに交換されます。

つまり『補助金』と『票』は綱引きをします。情けないことですが、これが現実の社会の仕組み選挙の実態でしょう。

話がとんだ方へそれでしたが『利益誘導のない選挙』なんてありません。「日本をよくするために頑張る代議士」よりも、私自身でも「千種区発展に全力をつくします」という人を支持するでしょう。国政であれ県政であれ同じことです。つまり補助金獲得は有形のものですが、形こそありませんが都合のいいような制度の新設改廃といったことも広義の利益誘導に他なりません。かつて佐藤内閣の時、青島参議院議員が「日本はアメリカの妾か」とやって論議を醸したことがあります。事実として米国に依存せずして自らを立てることができぬのです。『金権体質』という言葉がありますが、私は経済優先的発想は『妾体質』に近いものではないかと思うのです。最近のグレナダ問題における我が国の対応を眺めてみますと、言いたいことも言えず逆に腹にないことも言わねばならぬ辛さが身に染みます。『補助金』の3文字を眺めながら社会の仕組みやら人々の気持ちの移り変わりやら、果ては“たかり”の構造の成り立ちなどと取り止めなく思ったことであります。

◆講演

“貨幣の歴史”

東海銀行貨幣資料館長 鬼頭 晴彦 氏
(紹介者 小林君)

貨幣つまりお金というものは人々の生活に最も身近な関係にあるものなので今さら貨幣とは何か？と、あれこれ述べるまでもないことだと思います。だが貨幣はいつごろから流通したかということになると、その起源は大変古い昔にさかのぼらねばなりません。

戦時中、日本国は皇紀2600年とうたわれましたが、この数字は1000年ほどの水増しがありますので、あてにはなりません。

そして日本貨幣の歴史は西暦708年と同開珎の鑄造以降のことなので、これはそれほど



古いことは申せません。

ところが隣の中国の貨幣は3000年来の歴史がありますので日本国とは比較になりません。

紀元前6世紀孔子の在世当時、既に青銅貨幣は使われていました。衣食住に関するすべての生活文化が進歩していましたが、そのころ我々日本民族の祖先は掘って建て小屋に住んでいたのです。又西洋では古代キリシヤが栄えていたころ、紀元前7世紀ごろ貨幣が発生して、地中海の沿岸に伝わってきました。そしてキリストのころの貨幣に関する話はバイブルの中にも各所に書かれております。更に印度におきましては、お釈迦様の在世当時(紀元前6世紀)有名な祇園精舎が建立されるにあたって一富豪が多額の銀貨を支払って、その用地を手に入れ、釈尊の大教団のために寄進されたことが大蔵教典に記されておりました。これは考古学上からいっても事実であったことが立証されております。

そんなわけで世界の各地では紀元前から貨幣が使われていたのです。

日本ではどんなお金があったのでしょうか？世界最大の金貨といわれる大判、これは豊臣秀吉の時の天正大判からはじまります。その額面は十両、重さは165グラムもある大金貨で、これが大阪城の金蔵に山と積まれていました。

そして古来から日本は黄金の国として西洋にも知られていた国なので、各地の金山から大量の金を産出していたことは確実であります。

その証拠としては京都の金閣寺とか伏見城の金瓦・名古屋城の金の鯨などがこれを物語っています。

下って、文明開化の明治の世となり、貨幣の鑄造は西洋の方式にならって機械製となりました。そして明治初年にできた金貨には20円・10円・5円・2円・1円の5種が発行されて、日本の20円金貨は当時のアメリカの20ドル金貨と重さも純度も全く同一のものであったのでドルは円と同等のものでしたのです。

つまり現在のドルに対する円相場で円高とか円安とかいう言葉はありませんでした。

◆次回例会(11月15日)

フェイスサイドミーティングのため、講演はございません。